

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 前号目次 編集後記 奥付  |
| Sub Title        |   |
| Author           |   |
| Publisher        | 慶應義塾経済学会  |
| Publication year | 1949  |
| Jtitle           | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.42, No.5/6 (1949. 6)  |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            | Article   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490601-0090">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19490601-0090</a> |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

かくて戦後の計畫が確實性を増すにつれ、世界の物質的資源の不平等な分配にその根源をもつ従来の無秩序な移住運動に對し民主的な世界的統制を與へるといふ大事業から、多少とも緊急な仕事はこれを分離してゆくことが可能ともなるし必要ともなる。

つまる所移住は、國內的たるを國際的たるを問はず、平等化の手段である。それは又それにもまして生産力向上の手段たり得る。かくしてすべての人が、生活の安定と保證を享受出来る様な人口と資源の調整が究極の目標である。

四

以上著者の見解が、國際的な協調的計畫の樹立を説くことによつて、多分にアジア人口問題の國際的意義を強調していることが肯かれる。そしてこの事は、タムソン博士の見解に通ずる様に思はれる。(註五)

(註五) 板垣氏、前掲紹介参照

だが問題の根本は、抑々現在のアジア地域が、世界最大の人口密集地域であり乍ら、しかも人口増加趨勢の最高な地域であるといふ極めてパラドキシカルな状態にあるといふ點に横はる。したがつてその解決のためには、ヨリ深き政治的、經濟的、並びに社會的諸條件についての分析、検討が進められねば、恐らく具體的對策の展開は困難なものはなからうか。それはとも角として、本問題が世界の主要な關心事の一つと

なりつゝある際に、われわれ自身の一層深き注意と理解を喚起する意味において、本書の與へる効果を充分に認めるに吝でない。(一九四九・四・一〇稿)

前號 (第四十二卷) 第四號 目次

論說

商品の二要因の對立について……………遊部久藏

資料

——反省現定の論理學——……………

舊幕期の水産献上品と維新後の推移……………羽原又吉  
會津藩の漆生産について……………松尾謙介

書評

増田四郎著「ヨーロッパ社會の誕生」……………宇尾野久

編輯後記

本學會の事業には本誌の毎月刊行の外に、會員の研究發表がある。これは毎月二回、第二・第四水曜日の午後塾内で開催することを立前とする。この報告の若干は本誌に掲載されるが、すべてが印刷に附されるのではない。仍て昨秋以降の研究報告の題目と報告者を左に列記する。  
小島榮次氏「英國の經濟地域的構造」(昨年十月十四日)  
山中淳三郎氏「社會主義社會における價值法則」(十一月十一日)  
新保 博氏「享保期における調租形式の變遷」(十一月十七日)  
島崎澄夫氏「南部藩の製塩業」(十二月二日)  
伊東侍吉氏「戦後の中小工業問題の性格」(十二月十六日)  
高村象平氏「南北戦争の誘因」(本年一月二十日)  
青沼吉松氏「資本主義の合理性」(二月二十四日)  
高橋吉之助氏「會計の本質と機能」(五月十二日)  
野村繁太郎氏「福澤先生渡歐の際携行された手帳」(五月二十六日)  
高木壽一氏「近代財政學における公債支出論」(六月九日)  
福岡正夫氏「比較靜學と安定條件」(六月三十日)

本號から「學界動向」、「研究指針」の欄を設けた。每號必ず掲載するといふわけではなく、時に應じて載せる所存である。本年四月から開設の新制大學(本館經濟學部)には第三學年と第四學年とに互つて班別の「研究指導」があるが、この研修に役立てることを本欄設置の直接の目的とする。然しそれだけに盡きるものでないことは、本號所收の二篇に眼を通されたら直ちに諒解されるところであらう。

昭和二十四年五月二十五日印刷 第四十二卷  
昭和二十四年六月一日發行 第五・六號

本號定價 金七拾圓  
送料 四圓

編輯者 高 村 象 平  
發行所 東京都港區芝三田三丁目三番地大崎印刷部  
印刷者 川 口 芳 太 郎  
印刷所 東京都港區芝三田三丁目三番地  
圖書印刷株式會社

豫約購讀料 一年分 金六〇〇圓(送料共)  
半年分 金三〇〇圓

◎豫約購讀料は發賣所宛に拂込み下さい。  
◎誌代變更の場合は精算決済致します。  
◎編輯に關する用件は發賣所へ。  
◎營業に關する用件、購讀申込は發賣所へ願ひます。

發行所 東京都港區芝三田三丁目三番地大崎印刷部  
慶 應 義 塾 經 濟 學 會  
日本出版協會會員 二二〇一六  
東京都港區芝三田三丁目  
慶 應 出 版 社  
日本出版協會會員 二二〇一九